

第2次安中市総合計画（後期計画）策定のための 市民アンケート調査結果のご報告

I 調査の概要

◆ 調査の目的

この調査は、安中市の現状や将来に対する市民の意見をお聞きし、まちづくりの最も基本となる計画「第2次安中市総合計画」の前期計画期間（平成30年～令和4年）における成果の確認と、今後の計画策定に反映することを目的として実施したものです。

※この報告書は調査結果を抜粋した概要版になります。詳細版は市HPに掲載します。

◆ 調査の方法

調査の方法は以下のとおりです。

(1) 調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した16歳以上の市民4,000人
(2) 調査方法	郵送による調査票の配布・回収
(3) 調査期間	令和4年2月7日～2月28日

◆ 調査の回収結果

調査の回収結果は以下のとおりです。

(A) 発送数	(B) 回収数	(C) 回収率 (B/A)
4,000件	1,884件	47.1%

II 回答者の基本属性

◆ 性別

- 女性(53.2%)が5割以上で、男性(45.3%)より7.9ポイント多くなっています。

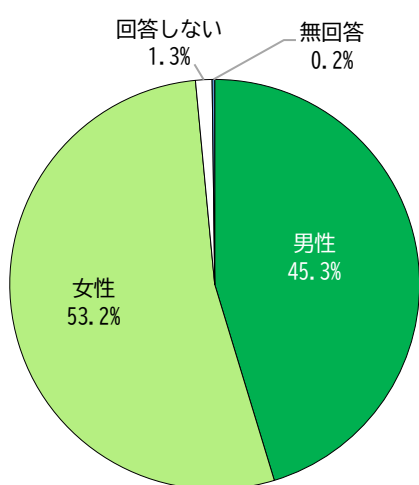


図0-1 回答者の性別の割合 (N=1,884)

※図表番号は詳細版（ホームページに掲載）のものを使用（以下同じ。）

◆ 年代

- 70歳以上(37.9%)が最も多くなっており、それ以外の年代はいずれも2割未満となっています。60歳代(19.7%)と70歳以上を合わせた「60歳以上」(57.6%)は5割以上となっています。

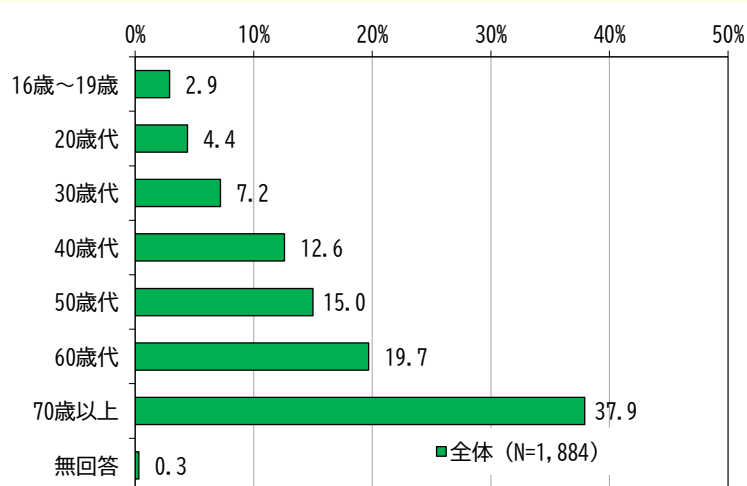


図0-2 回答者の年代の割合

Ⅲ 調査結果と分析

◆ 安中市の住みやすさについて

Q あなたにとって、安中市は住みやすいですか。（1つだけ選択）

「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』は5割以上となっており、前回調査（平成28年）と同程度となっています。

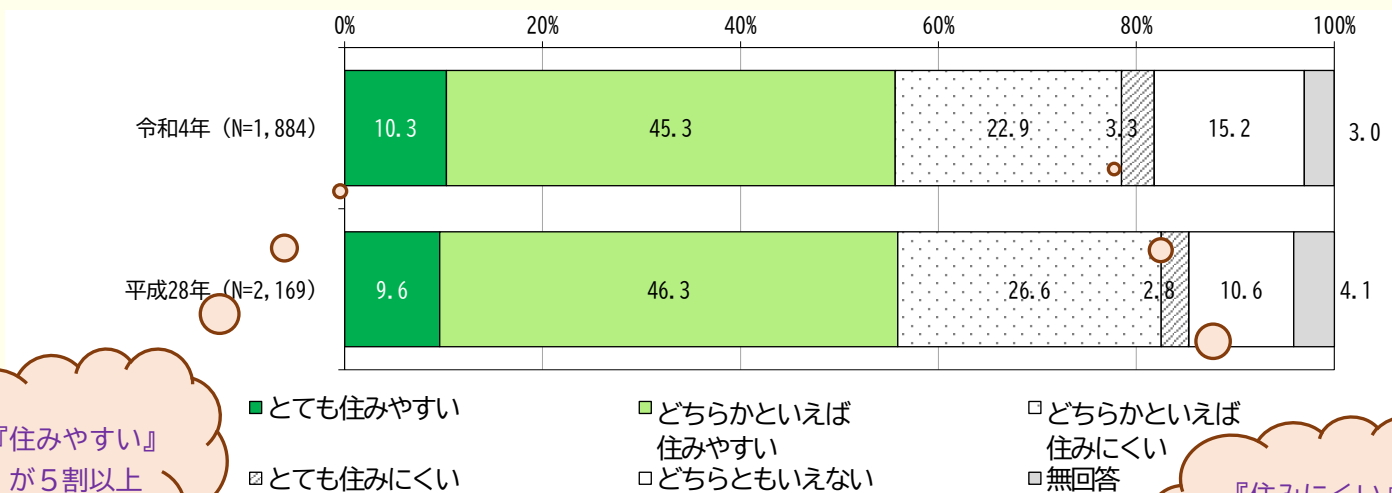


図1-1 安中市の住みやすさ（前回比較）

Q 住みやすい理由（3つまで選択）
 （「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」とした場合）

「自然災害の心配が少ない」が7割以上、次いで「自然が豊か」が6割以上となっています。

自然環境が住みやすさの要因となることが分かります。また、全体的に、平成28年と同じような傾向となっています。

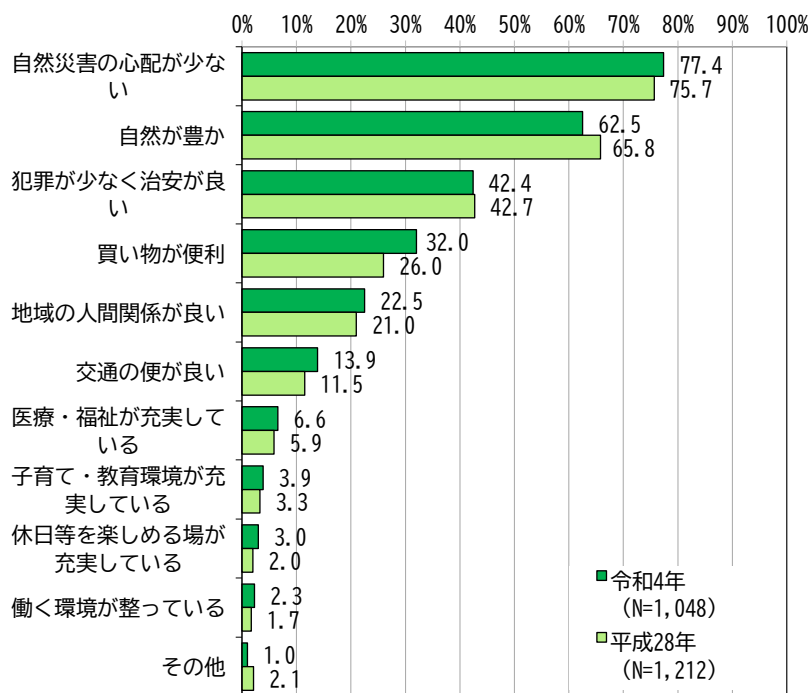


図1-4 安中市が住みやすい理由（前回比較）

Q 住みにくい理由（3つまで選択）

（問1で「どちらかといえば住みにくい」「とても住みにくい」とした場合）

「交通の便が悪い」はいずれの世代でも上位にあり、特に16～19歳は9割以上と高くなっています。また、「買い物不便」も、どの世代でも高くなっています。

「医療・福祉が充実していない」は30歳代以上で高くなっています。

40歳代以下ではこのほか、「休日等を楽しめる場が充実していない」「子育て・教育環境が充実していない」が高くなっています。

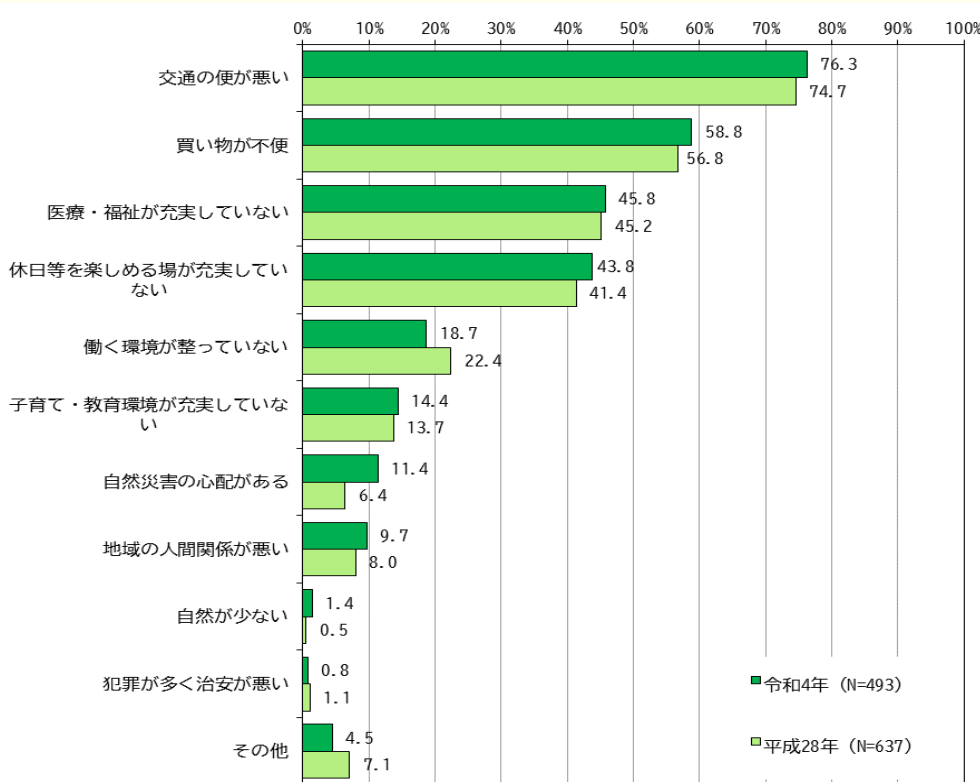


図1-5 安中市が住みにくい理由（前回比較）

住みにくい理由

- ・交通
- ・買い物
- ・医療・福祉
- ・休日等を楽しめる場

表1-3 安中市が住みにくい理由（年代別）（%）

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数 (N)	20	22	29	59	87	100	173
交通の便が悪い	90.0	72.7	65.5	74.6	80.5	71.0	78.6
買い物不便	55.0	72.7	62.1	59.3	52.9	57.0	60.7
医療・福祉が充実していない	20.0	13.6	51.7	44.1	56.3	49.0	45.1
休日等を楽しめる場が充実していない	70.0	68.2	69.0	54.2	48.3	37.0	31.2
働く環境が整っていない	25.0	4.5	13.8	16.9	19.5	24.0	17.3
子育て・教育環境が充実していない	10.0	27.3	41.4	32.2	14.9	8.0	6.4
自然災害の心配がある	-	4.5	3.4	10.2	6.9	14.0	15.6
地域の人間関係が悪い	-	-	10.3	13.6	3.4	9.0	14.5
自然が少ない	-	-	-	1.7	1.1	-	2.9
犯罪が多く治安が悪い	-	-	-	1.7	1.1	1.0	0.6
その他	10.0	4.5	3.4	5.1	5.7	3.0	3.5

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

◆ まちづくりの施策（行政の取組）について

Q まちづくり施策の重要度・満足度
 （各施策の重要度・満足度についてそれぞれ1つだけ選択）

「重要・満足」「やや重要・やや満足」「どちらともいえない」「あまり重要ではない・やや不満」「重要ではない・不満」にそれぞれ2点、1点、0点、-1点、-2点を与えて求めた平均値。

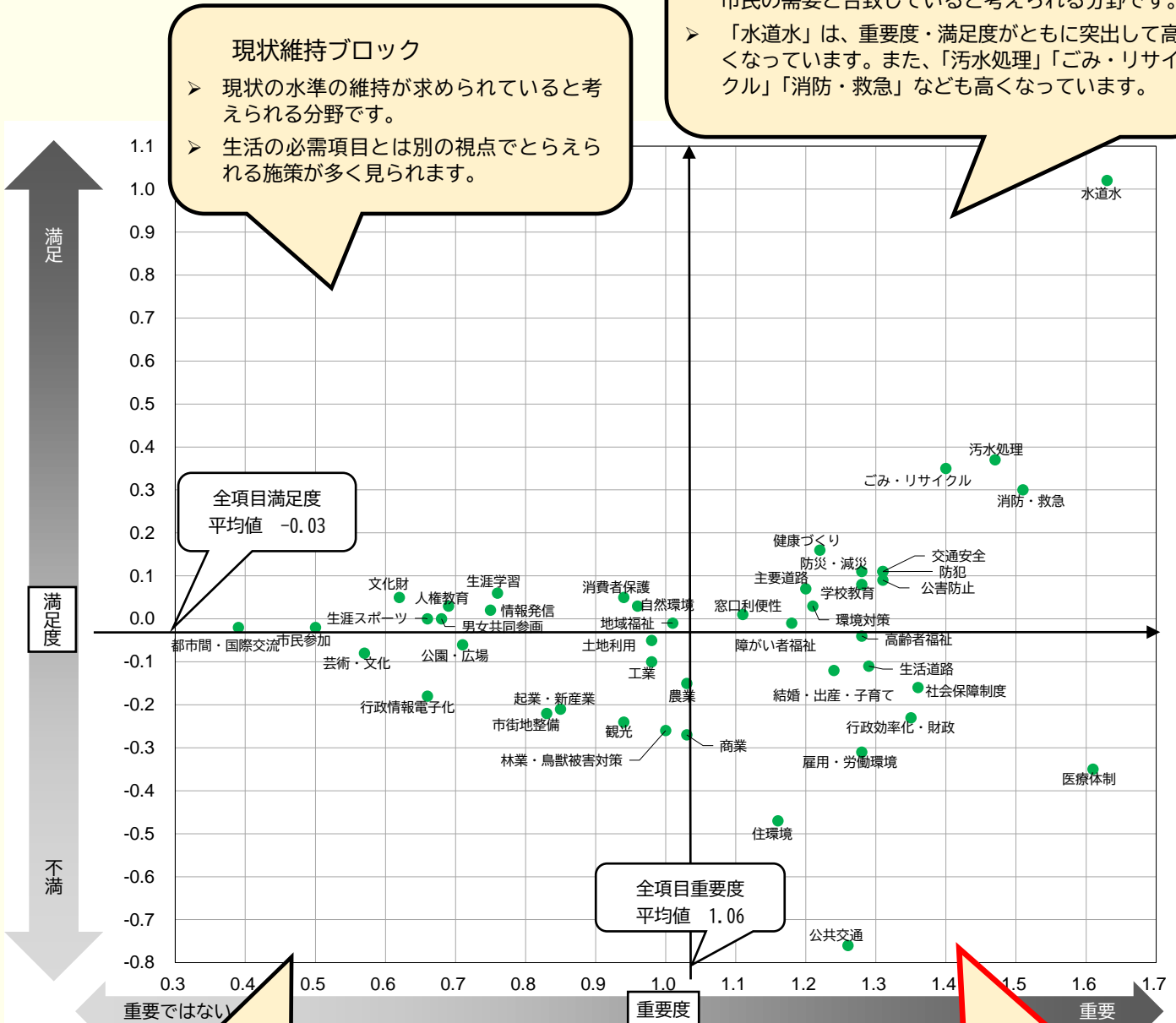


図3-5 施策の重要度・満足度（加重平均値、全体）

※水道水を除いた満足度の平均値は「-0.05」

Q 医療体制の充実のために、特にどのようなことが大切だと思いますか。
(3つまで選択)

「確氷病院の人材確保」が4割以上、「休日・夜間の医療体制」が約4割となっています。次いで、「確氷病院の高度医療」「市外の公立・公的病院との連携強化」「救急医療体制」が高くなっています。

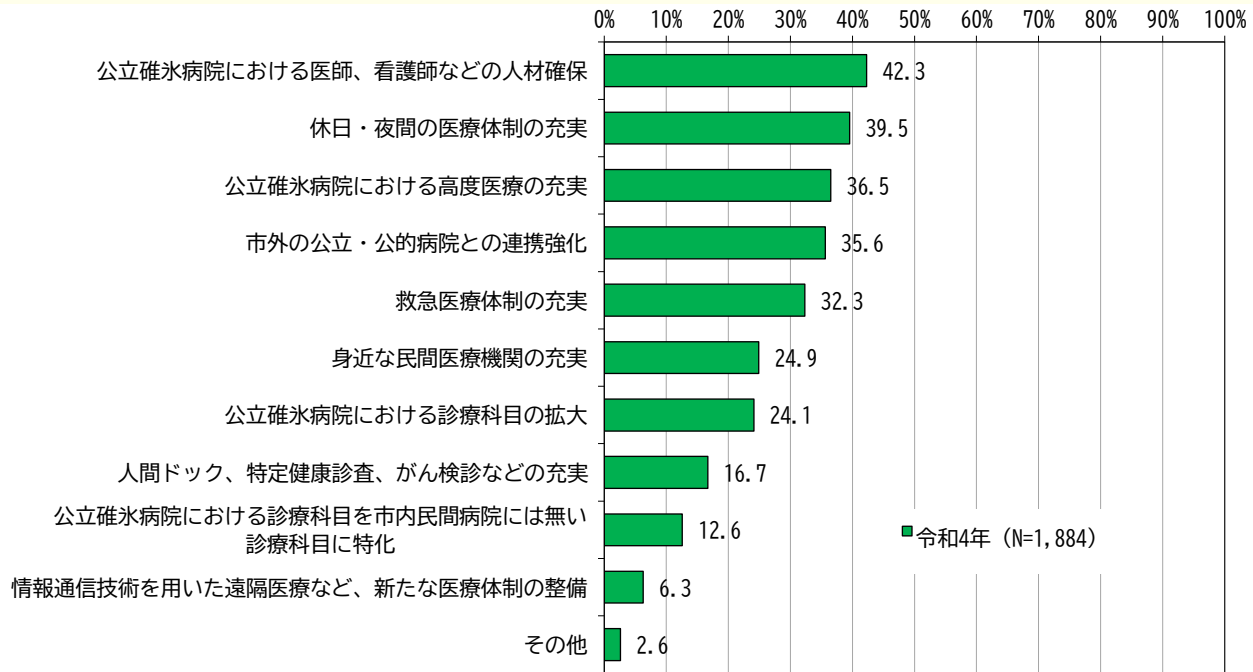


図10-1 医療体制の充実のために大切だと思うこと

表 10-1 医療体制の充実のために大切だと思うこと (年代別)

(%)	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数 (N)	55	82	135	238	282	372	714
公立確氷病院における医師、看護師などの人材確保	32.7	26.8	34.1	34.5	44.3	44.9	47.1
休日・夜間の医療体制の充実	49.1	51.2	50.4	46.6	38.7	38.2	34.2
公立確氷病院における高度医療の充実	36.4	25.6	28.1	31.5	36.9	34.7	42.0
市外の公立・公的病院との連携強化	34.5	41.5	28.9	34.9	33.3	43.0	33.6
救急医療体制の充実	36.4	28.0	30.4	33.6	35.5	32.5	31.1
身近な民間医療機関の充実	29.1	41.5	31.9	24.8	28.7	24.7	19.7
公立確氷病院における診療科目の拡大	25.5	17.1	17.8	22.3	21.6	25.3	27.0
人間ドック、特定健康診査、がん検診などの充実	23.6	14.6	28.1	16.0	10.6	19.4	15.4
公立確氷病院における診療科目を市内民間病院には無い診療科目に特化	5.5	9.8	9.6	12.2	10.6	11.6	15.5
情報通信技術を用いた遠隔医療など、新たな医療体制の整備	5.5	4.9	9.6	10.1	6.7	7.0	3.9
その他	-	3.7	8.1	3.8	3.2	3.0	0.8

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

Q 公共交通などの移動手段をより便利で利用しやすいものにするために、特にどのようなことが大切だと思いますか。（3つまで選択）

公共交通は、年代によって大切だと思うことに差があります。50歳代以上では「送迎サービス」が最も高くなっています。一方、30歳代以下では「運行時間帯の拡大や運行便の増加」が最も高くなっています。そのほか、40歳代では「運賃・料金などの利用者負担の軽減」が最も高く、「乗合タクシーの利用可能区域の拡大」は年代があがるにつれて、数値が高くなっています。

表 9-1 公共交通などの移動手段を利用しやすくするために
大切だと思うこと（年代別）

(%)	16～ 19歳	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上
回答者数 (N)	55	82	135	238	282	372	714
病院や福祉施設、商業施設などによる送迎サービスの拡充・導入	20.0	29.3	28.9	34.0	45.7	42.7	50.6
運賃・料金など利用者負担の軽減	38.2	32.9	34.8	40.3	36.9	39.5	36.3
乗合タクシーの利用可能区域の拡大	9.1	17.1	19.3	23.9	30.9	37.9	41.2
バスや電車の運行時間帯の拡大や運行便の増加	69.1	51.2	43.0	39.9	36.5	23.7	21.4
バス路線の見直し	25.5	19.5	20.7	17.6	28.0	24.2	26.8
タクシー利用券の拡充	7.3	14.6	17.8	16.4	17.7	24.5	28.4
鉄道駅利用者のための駐車場の整備	21.8	35.4	28.9	26.5	21.6	25.8	16.8
わかりやすい運行案内（時刻表、バスの位置情報の提供など）	25.5	19.5	22.2	22.7	19.9	19.6	15.0
地域住民の互助によるボランティア運送など新たな移動手段の導入	5.5	4.9	8.9	7.1	9.9	15.6	16.2
自動運転などテクノロジーを活用した新たな移動手段の導入	14.5	7.3	10.4	9.7	10.3	8.1	6.2
現金なしで利用できるキャッシュレス決済の導入（QRコード、ICカードなど）	20.0	19.5	16.3	18.9	3.5	3.2	3.9
低床車両の導入や停留所のバリアフリー化などの整備	5.5	9.8	11.1	4.2	4.3	5.9	5.9
車や自転車など他の移動手段があるので公共交通は要らない	1.8	3.7	6.7	5.5	1.4	2.2	2.2
その他	3.6	2.4	3.7	2.5	2.8	3.0	1.1

病院などの送迎サービス
50歳代以上が高い

運行時間帯や運行便の増加
30歳代以下が高い

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

Q 今後、人口減少や少子化、高齢化が進行する中での安中市のまちづくりについて、特にどのようなことが大切だと思いますか。(3つまで選択)

「地域の医療・介護環境」「公共施設・道路・公共交通適正化」がいずれの世代でも上位となっています。次いで「空き家の実態把握と利活用の促進」「産業の振興や雇用の場の確保」が高い傾向にあります。

表 4-1 人口減少社会に対応したまちづくりに大切だと思うこと (年代別)

(%)	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数 (N)	55	82	135	238	282	372	714
地域の医療・介護環境の維持と充実	50.9	54.9	55.6	59.2	74.1	72.3	67.1
公共施設や道路・公共交通機関の立地や規模の適正化	63.6	57.3	65.2	59.7	56.0	49.5	43.1
空き家の実態把握と利活用の促進	49.1	43.9	39.3	44.1	45.0	48.4	46.6
産業の振興や雇用の場の確保	34.5	36.6	45.2	42.4	44.7	48.1	35.3
地域住民のつながりや助け合いの強化	12.7	17.1	13.3	16.8	16.0	24.5	32.8
地域ごとに暮らしやすいコンパクトなまちづくり	20.0	19.5	29.6	20.2	17.4	17.5	20.6
だれもが自らの能力を発揮し、地域で活躍できる場や機会の充実	21.8	17.1	17.8	18.5	14.9	17.7	17.9
地域課題に取り組むNPOやボランティア団体の活動支援	7.3	9.8	8.1	8.0	10.3	6.7	10.1
その他	1.8	11.0	5.9	3.8	5.0	2.7	2.7

人口減少社会で大切なことは「医療介護の充実」や「公共施設や公共交通機関などの適正化」

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

Q 安中市に移住・定住する人を増やすために、特にどのようなことが大切だと思いますか。(3つまで選択)

各世代による差はあまり見られず、「子育て環境・子どもの教育環境の充実」が最も高い傾向にあり、「医療体制」や「就業・新規就農の支援」も高くなっています。

表 5-1 移住・定住を促進するために大切だと思うこと (年代別)

(%)	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数 (N)	55	82	135	238	282	372	714
子育て環境・子どもの教育環境の充実	65.5	73.2	74.1	63.0	63.5	57.0	43.3
医療体制の充実	45.5	39.0	31.9	47.5	57.1	47.6	43.7
市内移住希望者への就業・新規就農の支援の充実	32.7	31.7	36.3	36.1	37.2	40.3	41.5
産業の振興や雇用の場の確保	18.2	25.6	24.4	34.5	35.5	36.0	35.6
移住・定住につながる安中市での暮らしの情報発信	32.7	29.3	25.2	24.8	25.5	35.5	34.3
空き家や空き店舗の活用のための情報提供や費用補助等の充実	27.3	23.2	26.7	24.8	28.7	28.5	29.6
住宅の建設・取得や賃貸に関する情報提供や費用補助等の充実	27.3	25.6	27.4	18.9	11.3	15.1	13.9
未利用地の整備・活用による住宅用地の確保	9.1	13.4	14.1	12.6	11.7	12.9	16.8
市内移住希望者への起業・創業の支援の充実	10.9	12.2	15.6	14.7	6.0	12.9	16.1
その他	-	3.7	5.2	1.3	2.5	3.2	0.8

移住・定住を増やすために大切なことは子育て環境、教育環境の充実

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

◆ 今後の行政サービスのあり方とまちづくりについて

Q 5年後の安中市は、どのようなまちであってほしいと思いますか。
(5つまで選択)

20～40歳代は「子育て」、16～19歳と50歳代は「都市基盤」、60歳代以上は「福祉」が最も高くなっています。一方で、「市民協働」「生涯学習・社会教育」は1割程度と低くなっています。「福祉」と「学校教育」は年代によって差がみられます。

表 18-1 5年後の安中市の姿（年代別）

(%)	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数 (N)	55	82	135	238	282	372	714
災害に強く、犯罪や交通事故が少ない安全・安心のまち (防災・防犯)	41.8	42.7	45.9	49.2	48.6	46.8	49.0
高齢者や障がい者にやさしく、誰もが地域で暮らし続けられるまち (福祉)	34.5	22.0	26.7	38.2	48.6	50.0	56.3
道路や公共交通、公園などが整備された、機能的な住環境のまち (都市基盤)	50.9	56.1	50.4	50.4	50.7	49.5	41.2
安心して子どもを産み・育てられるまち (子育て)	41.8	61.0	63.0	55.0	49.3	43.0	37.4
健康づくりが盛んで、必要に応じて適切な医療が受けられるまち (保健・医療)	43.6	40.2	34.8	44.5	43.3	44.6	45.2
地域特性を活かした産業が盛んで、安心して働けるまち (産業・雇用)	21.8	34.1	24.4	31.5	32.3	36.3	28.0
人権が尊重され、一人ひとりが大切にされるまち (人権尊重)	30.9	22.0	24.4	18.5	28.4	28.5	31.2
自然環境の保全・活用と環境問題への対応が進むまち (環境)	21.8	28.0	17.0	20.6	23.8	29.3	30.1
効率的で透明性の高い持続可能な行財政運営がされるまち (行財政運営)	14.5	22.0	34.8	31.5	22.0	24.7	22.3
確かな学力と豊かな人間性を持つたくましい子ども達が育つまち (学校教育)	30.9	30.5	32.6	25.2	18.8	19.4	25.5
観光資源の活用により人々が訪れ・交流する、賑わいのあるまち (観光・交流)	23.6	17.1	14.8	21.8	22.0	20.4	20.2
地域の歴史や伝統が保存・活用された、文化的なまち (歴史・文化)	7.3	12.2	11.1	12.6	15.2	14.5	15.0
市民と行政の協働によるまちづくりが進むまち (市民協働)	5.5	4.9	4.4	8.0	6.7	15.3	16.8
誰もが生涯にわたり学び続けられるまち (生涯学習・社会教育)	14.5	7.3	5.9	9.2	8.2	8.6	10.1
スポーツが盛んで、誰もがスポーツを楽しめるまち (スポーツ・レクリエーション)	9.1	12.2	16.3	13.0	5.0	5.9	9.0
その他	3.6	2.4	3.7	0.8	2.1	1.3	0.7



安中市のマスコット
「こうめちゃん」

ご協力ありがとうございました。

※表は各属性において最も高い値を青色、2番目に高い値を緑色、3番目に高い値を黄色で表示。

作成／お問い合わせ先

安中市 企画経営部 秘書政策課 政策推進室

電話 027-382-1111 (内線1014・1015)